

題名 広島平和記念式典派遣事業に参加して考えること。



鹿沼市立板荷中学校 (氏名) 江田 さくら

中学2年生の歴史の授業で戦争について学び、戦争について興味を持っていたので、参加させてもらえてよかったです。実際に広島に行って思うことはたくさんありますが、一番印象に残っているのは資料館で見た写真です。頭蓋骨の山の写真が特に印象深いです。頭蓋骨を見ることがないのでそれだけで怖かったし、それが山のようにあったので、同時に「こんなに人が死んでしまったんだ。」と悲しい気持ちになりました。遺族の気持ちを察すると胸が痛くなりました。この人達のように悲しい思いをしてしまうことのないように、今回の派遣事業を通して自分にできることを精一杯していこうと思いました。

題名 ロシアのウクライナ侵攻に対して考えること。

鹿沼市立板荷中学校 (氏名) 江田 さくら

ロシアもウクライナも、自国から終戦はしないと思います。ロシアは戦争を始めた以上、成果をあげなければ引き下がることができません。ウクライナは、ロシアの虐殺を見えています。ロシアに奪われた地域の住民も同じような虐殺を味わうと思えば、自国の領土を奪われた状態で戦争を終えられません。ウクライナの人々は何の罪もないのに幸せな生活が一変し、家を離れる生活も強いられています。大勢の人が亡くなったり、怪我をしている現実がとても悲しいです。これ以上、戦争による犠牲を出さないためにも、世界中で平和のために助け合うことが大切だと考えます。

題名 今日ある日本の平和について考えること。

鹿沼市立板荷中学校 (氏名) 江田 さくら

地球規模で見れば、戦争がなくなることが「平和」だと思います。

しかし、日本ではピンと来ないので、身近なことで考えてみると、「いじめ問題」が平和と絡んでくると思います。

私は、いじめは「小さな戦争」だと思います。

だから、まず学校のクラスなどの団体からいじめをなくす意識を全員がすることで、いつかは大きな戦争がなくなることにもつながると思います。今日ある平和を守り続けていくためにも、身近なことから平和への意識を高めていくことが大切なことだと考えます。

題名 あなたにとって「平和な社会」とは何か、「平和な社会」を実現するために必要なこと。

鹿沼市立板荷中学校 (氏名) 江田 さくら

私が考える平和な社会とは、世界中の人々が幸せに暮らすことができる社会です。そんな社会を実現するためには、争いごとをなくすことが必要だと思います。世界の平和を実現するというと、取り組む問題が大きすぎて、個人の目線で向き合うと無力感を感じます。しかし、個人でも平和のためにできることはたくさんあります。例えば、普段の生活の中から相手のことを想って生活することです。これを全員が意識することで、大きな争いもいずれなくなると考えます。このように、個々の力は小さくても、それがたくさん集まれば大きな力となり、平和な社会にもつながっていくと思います。